

## E—メンバー候補者感想文(2月24日以降提出分)

平成22年3月25日 公共施設再配置計画担当作成

## No.5 男性 70歳

市の財政が厳しいこと、今後はさらに厳しくなるであろう事は、いま日本の各自治体を見ていると、これからの秦野市が経験するであろうことが、実感としてよくわかるような気がしてくる。これからの市民の生活を守っていく為に今我々がしなければならないことは何か。白書を読み、グラフを見て感じるのは、様々な施設の利用(存在すること)が市民にとっても、市にとってもあまり有効ではないということである。そういった施設がいくつか在るように思う。公共施設というものは、まずひとを集める魅力がなくてはならないし、また人が集まる所でなくてはならない。設立当初は、意義があり素晴らしいものを持っていたとしても、現在忘れられた様になっているところもある。施設を大別して考えると、特に市民が利用または享受するところ、秦野市民以外の人を対象に考えなければならないところ、また、今は見向きもされないが秦野の素晴らしさを維持しているところ、設立当時の意義があやふやになってきて、今のニーズに合わないのではないかとと思われるところなどがあると思う。私が特に考えるのは、はだのこども館、里山ふれあいセンター、くずはの家、などはその存在すら不確かである。熟考が必要かと思われる。

さらに公民館などは、利用方法や料金、管理体制や施設運営など再考の余地が多いにある。例えば、各公民館には市民から構成されている運営委員会のようなものがあるが、果たして機能しているのだろうか。公民館などは、まったく市民の手に委ねる方法はないものだろうか。施設はもちろん無駄なものを廃し、有効価値が高いものに用途を転換していくことが大事ではないか。今の時代を乗り越える思案こそ大切なことだ。

## No.6 女性 54歳

今回の公共施設白書を見て、改めて秦野市の人口の急増した時期と、その頃に建設された建物の多さを知りました。私もその頃に秦野市に住まい、30年近くが過ぎました。公共施設は鉄骨造、鉄筋コンクリート造のものが多いのでしょうか。改

修30年としても、その後建て替えを迎えるまでの年数は短く、建て替えを見越した改修が必要であると感じました。

その際、近隣の同機能を持つ施設や部屋を集約するとありました。公民館等は多くが学校の近くに配置されておりますが、少子化に伴い学校のクラスが少なくなり、空き教室も多くあるように思います。改修や建て替えをする際には、両者を同時に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

小中学校について、管理運営面でのスケールメリットに触れていました。確かに600人程度以上でメリットが現れる可能性があるようですが、基本的に通える範囲での学校は必要であるが、学校の規模を考える必要があるのでしょうか。人数の少ない地域の学校で、教育に差し支えない部分でのコスト削減はどのようなことが考えられるのでしょうか。幼稚園について、公立の利用はどのくらいでしょうか。また園児募集についての努力はどのようになされているでしょうか。

公民館の使用料は適当であるという回答が多くありました。利用回数についても定期的や1回又は数回を含めて76.2%という数字であり、さらに公民館での講座等、地域に広めていく必要があると思います。公民館によっては稼働率に差があると思います。予約を取りにくい館も多くあると思います。公民館同士で連携を図ることで全体的に稼働率を上げていく努力をしていくことなどが考えられるのでしょうか。

また、こども館など、子供優先で無料で使える施設は大切ですが、空いていれば大人のグループに関しても有料にして使用できるようにするなど利用の幅を広げていただければと思います。今回の検討は、施設の改修・建て替えを視野に入れてコスト面・稼働率なども考慮に入れての検討ですが、市民誰もが安心して、生き生きと活動できるスペース作りのためのものと考えています。

## No.7 女性 48歳

まず、私の思っている以上に「公共施設」いうものが多いのに驚きました。周知されていない施設も多々あるのだらうな思いました。ひとつひとつを見直したら、統廃合してもよい施設もあるの

かもしれません。

わたしの住んでいる地区は「上地区」です。数の原理で考えると真っ先に見直される対象になると思います。しかしながら高齢化・過疎化が進んでおり、また交通手段も限られているこの地区で「公民館」のような施設がなくなると大変不便だと思います。

現在行っている「公民館の放課後教室」でボランティアをさせていただいています。ただでさえ人数が少ないのにどれだけ子どもたちが参加するだろうと思っていましたが、毎回たくさん子どもたちが参加していて、地域の方々とのしそにふれあいながら活動しています。

これからの時代はますます「人と人とのつながり・交流」が大切になってくると思います。その「場」として「公民館」や「公園」などの「公共施設」は大切な役割を果たすと思います。

「民間」に委託してしまうとどうしても「利益」にこだわってしまうように思います。そして「人と人とのつながり・交流」というのは「利益」に結びつきにくいものです。

「民間」には「利益」に結び付けるためのノウハウもたくさんあるはずですが、安易にゆだねてしまうのではなく、そのノウハウを職員の方々に学んでいただき、「公共」として運営していただきたいと思います。

人育てこそ秦野市の発展にはなくてはならないものだと思うし、また、「市」で育てていくべきものだと思います。

そのためにもどのようにしていったらよいか、考えていけたら…と思います。

#### No.8 男性 32歳

この度、秦野市において、公共施設の適正配置と効率的な管理運営を実現し、私たち市民が将来にわたって持続的に施設を利用できるよう、公共施設再配置計画（仮称）の策定を進めていることを知りました。今回、計画策定の基礎資料となる「秦野市公共施設白書（本編ダイジェスト版）」を読ませて頂いた感想を次のとおり3点ほど述べたいと思います。

【感想1 今後、秦野市を待ち受ける非常に厳しい将来事情】

全国的にも人口減少が進む中、秦野市では昨年、人口17万人を達成しました。

しかしながら、今後は人口も徐々に減少し、人

口構成も老年人口は増加、年少人口は減少していきます。また、秦野市の財政状況をみると、一般会計歳出決算額のうち、扶助費の割合が増える一方、投資的経費の割合は減少するなど、維持補修費に充当できる財源の確保も厳しい状況にあります。更には、昭和50年代をピークとする人口急増期に建設された施設の更新が今後多く待ち受けており、このままでは早晩、公共施設の適切な管理運営は不可能になることが白書から読み取れました。

【感想2 秦野市が先陣を切って公共施設の再配置を推進すること】

白書によると、地区による施設配置の偏在があることや、縦割りの利用目的で建設された施設の使い勝手の悪さなどが指摘されており、またこれらの問題は、施設の担当部署に任せたままでは一方向に解決しない問題であることが分かりました。

私も近隣の自治体に勤めており、こうした課題解決に向けた取組は行政のみでは、相当困難であることはよく存じているつもりです。だからこそ、このような画期的な白書を作成した秦野市が、単なる現状把握に留まらず、市民を巻き込んで、今後の自治体のモデルケースとなるような計画を策定して欲しいと思います。

【感想3 これからの秦野市を支える責任世代としての自覚】

私は、幼少の頃から秦野市で育ち、現在も市内に暮らしていることから、この街の魅力や素晴らしさは、どんな美辞麗句よりも肌で実感しています。今後も、自分の両親や家族、兄弟や友人などが市内の公共施設を利用する際には、適正な使用料を払い、市から心のこもったサービスを受用できる環境を継続して欲しいです。そのためにも、行政任せにせず、この街で暮らす一市民として、そしてまた一納税者としての責任と自覚を持って、これからの公共施設の在り方を考えていくことは非常に大事なことだと認識しました。

以上が、私の感想になります。私の大切な故郷である秦野市が、今後も持続可能な行政サービスを提供し続けていけるよう、E-メンバーとして、計画づくりのお手伝いをさせていただければ幸いです。

#### No.9 男性 30歳

秦野市公共施設白書を拝見し、私の感じたこととお話させていただきます。

それはまず1点目が、市において公共施設に着目しストックやコスト、サービスに視点を置き、施設によって性質の異なる庁舎や公民館など457施設を対象に調査を行ったことです。今までは施設の情報として市民に公表しているものは端的な利用人数や一部の管理運営費などであって、市民側としては理解しにくいものでありましたが、本書をみて施設の情報を具体的に掘り下げた内容でまとめられています。私たちは普段から公共施設を身近に利用することがあっても、施設の利用状況や年間にどれだけの維持費を投じているかなど知らないままでしたが、このことによって施設の設置による運営コストの状況を改めて認識し、施設自体の在り方について強く感じさせられます。

2点目としては、公共施設の課題ですが、先ほどと同じく施設を継続的に運営するための管理運営や維持管理など年々費用を投じているのがわかります。また、今後は施設の老朽化に伴う建て替えなどが生じ、推移をみる限りでは来る年に大きな財政的工面を強いていく必要があるのが読み取れ、今後は施設の統合や廃止などの再配置、また施設運営の改善などを行い、財政面の圧迫を抑制していくべきだと思います。

最後に利用者によるアンケート調査結果についてですが、実際に利用する方の意見は貴重な意見であります。施設を運営していく上では、利用者からの負担を考えてよいと私は思います。また、施設の利用状況によっては、施設の廃止、統廃合などもやはり将来に向けて視野に入れるべきと考えます。

今後は人口が減少し、少子高齢化が進んでいく中で、社会的変化や動向を把握し、市民の暮らしを守る施策や多様化する市民ニーズを的確に応えた施策を市として講じていく必要があります。ついては、公共施設の再配置計画の策定に向けた取り組みを積極的に検討し、将来の秦野市政の発展に向けていただきたいと思います。私も秦野市民として微力ながらもお力になりたいと思います。

#### No.10 女性 61歳

市内広報で秦野市「公共施設白書」が発行されたことを知り、図書館にて拝読しました。私は秦野市に移り住んで26年になります。子育てを通して秦野市内の公共施設を色々利用してきたつもりでしたが、今回の白書で秦野市のほんの一部の施設を使ったに過ぎない事が分かりました。また秦

野市全体についても色々知る事が出来ました。

今回の「管理運営コスト」の公開は私にとって市政は自分の財布と同じように身近な事だとわかりました。

読み進んでいくうちに老朽化の所に「表丹沢活動センター」があり妙な気がしました。確か2年位前に完成したのに老朽化？よくよく読むと木造なので30年で計算とありました。一般家庭では新築したら死ぬまで住んで後は子や孫が更地にするか住み続けるか何れにせよ残された物が考えて決断しますが、市政とは持続的に新築した時から立替の計画が必要なですね。いつでも先々の財政の心配をしなければならない大変気の重い仕事だと思いました。

「利用機会の平等性と利用負担の公平性」は今すぐ是正出来る事で真っ先に実現してほしい項目です。

視点の5項目ももっともだと思います。ただ、だからと言って利用者が少ないから廃止すると言うのではなく、地域にとっての公共施設のあり方を、地域住民とともに考えて、より有効に効率的に運用するにはどうしたらいいかを考え合う事が大切だと思います。市民のために働いているのではなく市民とともにより良い市政を共有と言う方向でお願いします。

26日締め切りと言う事でサッと読んだ感想で簡単になってしまいました。